



白樹粉屋おどり(芝山町)

九十九里浜地曳大漁歌(匝瑛市)

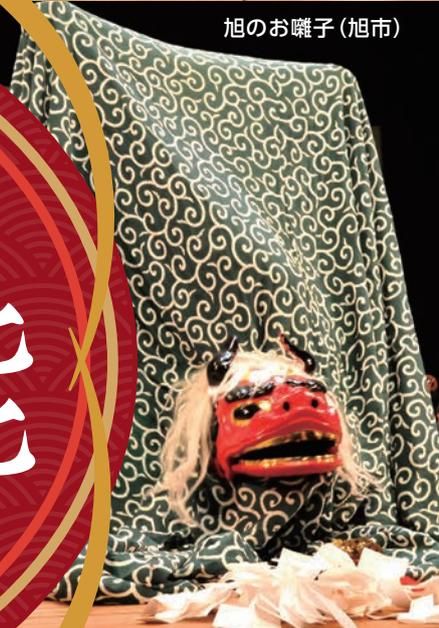
旭のお囃子(旭市)



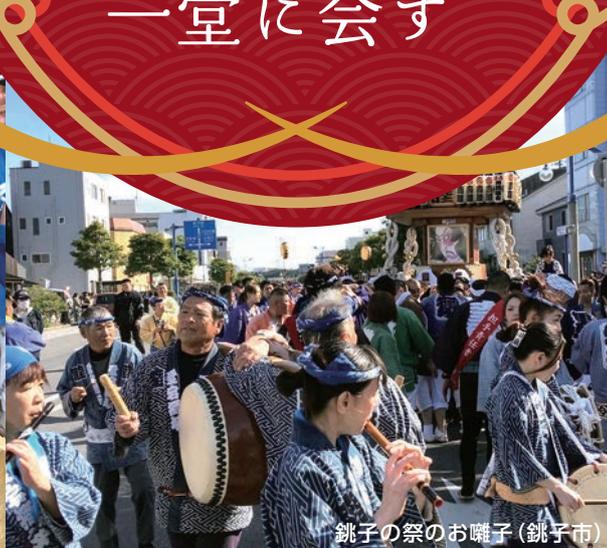
熊野神社の神楽(旭市)

房総の 郷土芸能

7つの民俗芸能が
一堂に会す



銚子のお囃子(銚子市)



銚子の祭のお囃子(銚子市)



笹川の神楽(東庄町)

令和5年 **1月22日** 日

入場無料 事前申込制

開場12時 開演12時30分

会場 **東総文化会館**

〒289-2521 旭市ハの666番地

TEL 0479-64-2001

事前申込先 (往復ハガキにてお申込ください) 申し込み期限: 令和4年12月28日(水) 必着

〒101-0021 東京都千代田区外神田2-18-2

(株) ITP プロモーション事業部内
「房総の郷土芸能2022」運営事務局 宛

往復ハガキ記入事項 代表者氏名、入場希望者氏名(5名まで)、代表者電話番号、代表者住所

任意記入事項 代表者メールアドレス、特に興味のある演目

主催 房総の郷土芸能2022実行委員会
千葉県(千葉県教育委員会)、千葉県無形民俗文化財連絡協議会、旭市教育委員会、東庄町教育委員会、銚子市教育委員会、匝瑛市教育委員会、横芝光町教育委員会、芝山町教育委員会
後援 千葉テレビ放送・株式会社千葉日報社・bayfm・朝日新聞社千葉総局・読売新聞千葉支局・毎日新聞千葉支局・産経新聞社千葉総局・日本経済新聞社千葉支局・東京新聞千葉支局(順不同)
助成 夢まるふぁんど委員会《第17回夢まる文化(国際)事業》、芸術文化振興基金助成事業

問合せ: 房総の郷土芸能2022実行委員会事務局(旭市教育委員会生涯学習課内) TEL.0479-85-8628



房総の 郷土芸能

千葉県内各地には、豊かな自然や歴史の中で培われ、今日まで伝承されてきた民俗芸能が数多くあり、地域の祭礼等で演じられていますが、日頃は地域で演じられている民俗芸能を目にする機会は多くありません。そこで、こうした文化財に対する一般の理解と認識を深め、将来への保存・継承活動の推進と地域文化の活性化に寄与することを目的として、平成8年度から地域を代表する民俗芸能を集めて上演する「房総の郷土芸能」を開催しております。

笹川の神楽

(笹川神楽保存会／東庄町)

「笹川の神楽」は、東庄町笹川の7地区に伝承されているものです。起源は建久2(1191)年、鶴岡八幡宮の造営にあたり、千葉成胤、源家の武運長久を祈願して千座神楽を奏したのが当神楽の起源と伝えられる832年前からの歴史ある神楽です。現在使用されている面は、明治23年に氏子が奉納したもので十六面神楽となっています。当神楽は地元諏訪大神の例大祭に毎年4月の第一土曜日に奉納されます。今日は、「笹川神楽保存会」として、その7区から出演者を募った混成チームで演じます。演目は「稲荷大神」の農耕舞で、稲荷大神、白狐、種時之神が登場します。「樽踊り」、「幣舞踊り」、「鈴踊り」、「鉦踊り」と曲目が変わる軽やかな舞で、演者の身の軽さが見どころです。又、白狐がダンゴを投げたり、自分の尾を投げる時の舞は、やはり跳びはねる身の軽さが見どころだと思います。一方、種時之神はゆっくりとした曲からリズムカルな曲に変わるところが見せどころです。



旭のお囃子

(袋お囃子保存会／旭市)

袋地域に伝わるお囃子は、現在の香取市小見川の阿玉川地域の流れを汲むもので、「阿玉川流」と称して、200年前の文政年間(1818~1830)から受け継がれ、私たちの地域では「袋でんでん」と呼ばれています。旧旭市内の太田地区では、昔から「袋でんでん」「馬場喧嘩」「新川羽織に宿ちゃらちゃら」と、地域の代名詞とも呼べる愛称がありました。「袋でんでん」は、農閑期や夕方になると、毎日のように袋の集落から「でんでん」と太鼓の音や笛の音が聞こえてきて、お囃子や下座踊りが盛んであったことに由来しています。祝事や五穀豊穰、無病息災を祈る「獅子舞」と「下座踊り」が入るのが特徴で、儀式的な「役物」、曲が無くつかの段に分かれた「段物」、地域色が強い短編の「端物」、などが受け継がれています。今日の演目は、「祇園囃子」「曳三番・小林くずし」「磯部」「獅子舞」「早馬鹿」です。



鉾子のお囃子

(鉾子市民謡保存会神輿連合 阪流会／鉾子市)

鉾子市民謡保存会神輿連合「阪流会」は、鉾子に伝わるお囃子「岡野台流民謡」の保存、継承並びに後継者の育成に努めるとともに、鉾子市民の文化的向上に寄与することを目的として活動しています。岡野台流民謡とは、文治6(1190)年に中島城を築いた千葉氏の一族海上氏のお膝元となる鉾子市岡野台地区発祥の郷土民謡であるお囃子のことを言います。私たちは、お祭りや発表会、地元の小学校や老人ホームへの慰問など、地域の方々へ披露させて頂いております。近年では、次世代を担う子供たちへの継承に一層力を注ぎ、「お囃子親子教室」を毎年開催し、子供達が伝統文化の大切さを学びながら、人間性を自ら向上させる「強さ」を育むべく、活動の場を広げております。今日は、よく耳にする曲から、めったに聞くことのできない味わい深い民謡まで、時を経て淘汰されることのない名曲を披露させて頂きます。



九十九里浜地曳大漁歌

(九十九里浜地曳大漁歌保存会／匝瑳市)

地曳大漁歌は、祝い唄として、江戸時代、九十九里一帯の鰯の豊漁がきっかけでうまれました。堀川浜では、地曳網がとて盛んで、鰯は堀川のものだとさわざたて、とれたイワシを砂浜一面に広げ、干鰯という肥料にしました。唄は20番まであり、13番目「子供たちがさらいを手に持ち、干鰯を寄せ、浜大漁だね」という歌詞があります。地元では、堀川浜大漁節といって、お祝い事には欠くことができず、最後には必ず歌と踊りで閉めることが決まりました。地曳労働唄は、労働に伴い自然にできた歌です。小舟に網を積んで沖へ張り出し、腰に網の綱を巻いた状態で、「腰引き」といって長時間綱を引きながら待ち、そして、「網が来たぞ〜」の合図で、「ヤッパ、ヤッパ」とみんなで掛け声を出します。その当時、男衆は裸で、女衆は島田を結って腰巻をたぐり、大声で皆「飯圃の先から、大東の先まで、入り来る鰯 堀川のものだよ しかけてしよわせろエーホー」と声を出しました。これが労働唄です。



鉾子の祭のお囃子

(鉾子囃子保存会 愛宕獅子／鉾子市)

鉾子囃子保存会「愛宕獅子」は、昭和53年に発足し、以来小学生からシニアまで「礼儀正しく・真面目に・素直に」の心得の元、郷土民謡を伝承すべく、日々練習に励んでおります。毎年7月の愛宕神社祭礼、8月の納涼踊り大会で演奏するほか、御神輿の担ぎ手としても参加しております。演奏する「祭り囃子」は、大潮祭り等で御神輿を先導するお囃子で、太鼓を二人で担ぎ、跳ねながら叩きます。「鉾子大漁節」は、文久4(1864)年に川口明神の大漁祭で歌われたのが起源とされ、今では盆踊りや運動会で広く踊られています。「上官様節」は、天明3(1783)年の浅間山の噴火による大飢饉の際、独断で藩の米蔵を開放し、苦しむ領民を救ったものの、後に責任を問われて切腹した飯沼陣屋の高崎藩士「庄川左衛門」を偲び民謡として歌い継がれております。



白柵粉屋おどり

(白柵粉屋おどり保存会／芝山町)

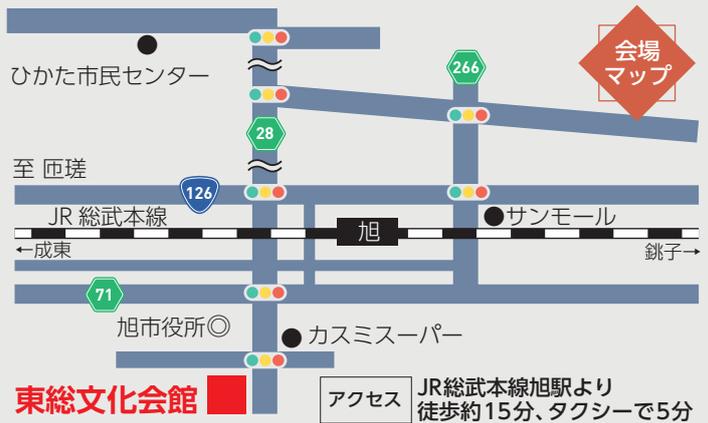
「白柵粉屋おどり」は、江戸時代に芝山町白柵地区にあった粉屋の美しくも薄命だった娘を慕う唄と踊りです。その由来は、現在の多古町や匝瑳市にあった僧侶の学問所へ向かう学僧が、この娘を見初め、婿になりたいという想いが唄になったものと伝えられています。昭和43年に千葉県無形民俗文化財に指定された後は、「白柵粉屋おどり保存会」が唄と踊りを伝承しています。踊り手は女性で、男役と女役に分かれて踊り、太鼓、四つ竹、笛を演奏します。「おいとこそうだよ〜」の唄い出しにより「おいとこ節」とも呼ばれ、天保年間(1830~1843)に江戸で流行し、明治、大正の頃には芸事の習い始めに用いられたといわれています。また、岩手県や宮城県では「おいとこ節」が地元の代表的な民謡として唄われ、東京都・埼玉県・神奈川県では「白柵粉屋」が、万作踊り・お洒落踊り・船屋踊りなどといわれる郷土芸能の演目のひとつとして登場します。これは、街道を行き来した学僧などによって「白柵粉屋」の物語が各地に広められたと考えられています。



熊野神社の神楽

(熊野神社神楽保存会／旭市)

旭市清和乙に鎮座する松澤熊野神社の神楽は、毎年2月21日、22日の2日間にわたり奉納されてきましたが、現在では、3月21日、彼岸の中日の大御饗祭に天下泰平・氏子安泰・五穀豊穰を祈願して奉納されています。元禄年間(1688~1704)に現在のかたちにとめられたといわれ、はじめ社家により、明治以降は宮本区の若者によって演じられ、現在は保存会を結成して伝承に努めています。社殿脇の神楽殿で、「猿田彦の露払い」に始まり、「素盞鳴命のメ切」で終わる13座、13面、13舞、10曲の謡です。仮面神による一人舞を基本とし、メ切のち、拝殿に移り、面なしで演ずる「ひょうじょう返し」と呼ばれる「神返しの舞」が特徴で、昭和55年に千葉県無形民俗文化財に指定されました。今日の演目は、「恵比寿」と「メ切」です。見所は、恵比寿が鯛を釣りあげるまでの所作と素盞鳴命の勇壮な舞です。



東総文化会館

アクセス JR総武本線旭駅より
徒歩約15分、タクシーで5分